

今年も春の幕開けを呼ぶ節分と立春を迎えた。地球の温暖化と騒がれながら、厳しい寒さと一日の寒暖差の激しい日々が続いているこの現象も地球環境の変化のせいだろうか。50年程前には冬から春に向かって、穏やかに移行する三寒四温の季節感を抱いていたと思うが、近年それが失われてきたのだろうか。高齢化による感度の鈍さや体力減退のためか、春の到来が待ち遠しく感じられるようになってきた。

さて、毎年節分は2月3日と思っていたが今年は2月2日だった。地球の公転は1年365日より少し長くて何年かに2月2日になったり2月4日になったりするという。言われてみればそりゃそうだなと思う。立春の前日は節分で、正月の前日は大晦日であるように、季節の変わり目には、前日に邪気払いをする日本古来の習慣がある。節分には鬼払い、鬼追い、追儺(ついな)の行事がすでに室町時代から庶民化したとされ、500年以上の日本文化の伝統行事の一つとして各地で催されてきた。しかも節分は地域特有の特色はなく、「鬼と豆」は一对で演出されているのが面白い。豆は「魔目(鬼の目)」として鬼を追い払い、「鬼は外」の武器となり、また活力源としての貴重な役割として福を呼ぶので、「福は内」に通ずるという。また歳の数プラス1個は翌日の立春から始まる1年が無病息災の年である様願う意味があって食するという。

節分には鬼が家に入ってこないよう玄関に柗(ひいらぎ)の葉に鯛(いわし)の頭を刺して防御する。柗の葉のトゲや鯛の臭いが鬼除けになるという。私の居住する八尾ではこの風習は途絶えたが、よく出かける古都・飛鳥の地、奈良県明日香村ではまだ旧家の門によく見られる。



柗と鯛の頭

今年の2月2日は近畿地方は雨模様で、豆まき

や鬼追い行事ができない情報があって、拙宅の近所にある大黒殿で毎年行われる境内での行事は、屋内の大きな社殿内で行われた。正午に行われるので、出かけて福豆をいただき



大黒殿の節分祭旗



大黒殿での豆まき

て帰ってきた。七福神の並ぶ前で、和太鼓の演奏する舞台の前で豆まきが行われ、行事を盛り上げる工夫がされ参拝者をもてなしてくれた。ここは鬼追いでなく招福

の豆まきというもので鬼は出てこなかった。



八尾天満宮の豆まき櫓と人出

人が多くいるものである。近年豆の代わりに殻付きの落花生を撒かれるところが多くなってきて、時代と共に変わってきているようである。

さて豆まきが終わると、境内の照明が消され、いよいよ松明をかざした鬼の出番となる。

大黒殿の近くに八尾天満宮が在り、夜の7時半から「鬼追い式」が開始されるのでそこへも出向いた。毎年祭事は盛り沢山に行われることから、日頃は静かな境内は驚くほどの老若男女と子ども、幼児達が集まる。約長さ100m、両幅10m程度の小さな境内の中の参道入口には10店ほどの夜店が並ぶ。奥に向かって豆まきの高い櫓が設けられるので、奥の本殿に向かうには人をかき分けて進むことになる。本殿で長々と神事が行われた後、いよいよ豆まきが始まる。小袋に入った福豆を捕まえることはできない混雑さの中でも、結構うまく拾う



赤鬼の登場



天狗の登場

赤、黒、青の鬼達と天狗が一斉に参道を行き来し、子ども達を怖がらせあちこちで悲鳴があがり、松明の火の粉が散って騒然となる。やがて太鼓の音と共に鬼達が退舞いの登場となる。子供たちは獅子頭に自分の散し、次に獅子頭を噛んでもらうと、賢くなると言うので、親子共々懸命に獅子舞を呼び込むのでごった返す。やがて法螺貝を吹く者とそれに続いて、福娘が振る「神楽鈴(かぐらすず)



七福神の前で和太鼓の演奏

を鳴らしながら招福を願うお練が始まると、祭事のクライマックスも終わりに近づき人々の興奮も収まって、やがて人々は帰路につき始める。その間約1時間半は主催者も



福娘が招福の鈴を鳴らす

参拝者も一体となった演出劇が終わることになる。今年は太鼓を担ぐ人の中に黒人がいた事に少々驚いた。日本古来の節分祭に海外の人達も



太鼓を担ぐ外国人

関心を持ち、参加するようになってきたのだろう。日本古来の文化が娯楽化しイベントに変化してきて、本来の鬼を追っ払い無病息災や厄災の無い日々を祈ったり、招福を願う素朴な心が薄れてきてしまうように思えた。こうした祭事を次代の子供たちに本来の意味を引き継いで欲しいものだと思っているが、何かにつけ季節の節目に心機一転することの好きな日本人は、よく「水に流して・・・」と辛いことなどを忘れようとする生活の知恵も備わっているのだろう。日常生活に根付いた祭事の継承活動をしている祭礼保存会の方々に、地方自治体の手厚い支援を期待し

たいものだと感じた。翌日の早朝、ウォーキングの途中に天満宮へ立ち寄った。前夜のあの賑いは嘘の様に静まり返っていたし、何より夜店の跡や境内はゴミ一つなく履き清められていて、静かな参道は実に清々しい雰囲気になっていた。保存会の人々の後片付けによるものだとその行動に頭が下がった。綺麗好きな日本人を海外からの訪日客は良い評価してくれるが、私は昔から日本人は礼儀正しく、心優しい生活習慣を律儀に代々伝えてきたことによる結果だと思っている。子どもの頃から家庭や小学校での教育の成果によるものだろう。

今年も平穏で健康な1年であってほしいと願いながら、春の幕開けを告げる立春の朝を迎えられた節分だった。



獅子頭が幼児の頭を噛む